

地球環境・人間生活にかかわる水産業及び  
漁村の多面的な機能の内容及び評価について

(答 申)

平成16年8月3日

日 本 学 術 会 議

# はじめに

平成15年10月8日、農林水産大臣から日本学術会議会長に対して、「地球環境・人間生活に関わる水産業及び漁村の多面的な機能の内容及び評価について」諮問がなされた。

そもそも、日本は四方を海に囲まれ、栄養塩類豊かな海流がもたらす調和のとれた生態系によって、歴史的にも国民生活と密接に結びつく形で水産業及び漁村が発達した。そこで水産業及び漁村は、単に水産物を供給するのみならず、物質の循環、環境の保全、社会の安寧（国民の生命財産の保全）、保養・交流・学習などの場の提供、また漁村文化の継承、健康の増進など多くの機能を働かせてきた。しかしながら、日本の漁業を取り巻く環境は、他の一次産業と同様に就業者の高齢化、経営体の弱体化、また国際化などの課題に直面しており、これら原因による漁業の減退が地域社会、さらには国民生活全体に影響を及ぼすことが懸念される状況にある。

そこで近年、水産業及び漁村の存在を再評価するために、その有する多面的な機能の内容及び評価などについて調査研究も行われているが、国際化も含めた漁業構造変化に加えて、地球規模での環境要因変化が海洋資源管理の視点を複雑にしており、幅広い学術分野からの知見に基づく領域横断的な評価が求められている。

日本学術会議は、この諮問を受けて、直ちに全領域の委員からなる「水産業・漁村の多面的機能に関する特別委員会」を設置して検討を行った。特別委員会では、諮問の趣旨に添って「水産業」ならびに「漁村」に関する二つのワーキンググループで討議を重ねたが、この両者の機能は明確に分離すべきものではないとの認識に立ち、第3回以降は合同会議によって答申書の取りまとめを行ったものである。

水産業及び漁村が有する多面的な機能は極めて多種多様であり、かつその担うところはまことに重大であるが、まだまだ未解明なところが多い。特に定量的な評価は調査研究の途上にあり、その評価手法も十分に開発されていないために、今後の研究に待たねばならないところが多いが、本答申の趣旨と内容が広く国民に理解され、水産業及び漁村の発展、ひいては地域社会の新たな展開として、国民生活の向上と安寧に寄与することを期待するものである。

目次  
要旨

I . 現況	3
1 . 日本の水産業と漁村の特徴	3
2 . 水産物供給の現状	4
3 . 資源管理体制の成立	6
1 ) 全般的動向	6
2 ) 資源管理型漁業	6
3 ) TAC制度	7
4 ) 採取産業としての漁業の特性	7
4 . 環境保全型増養殖業の推進	8
1 ) 増殖と養殖による生産	8
2 ) 生産現況	9
5 . 水産業・漁村の文化史的意義	9
6 . 水産物と健康	10
7 . 漁村の現状と新たな取り組み	11
II . 水産業・漁村の多面的な機能	13
1 . 食料・資源を供給する役割	15
1 ) 安全な食料を安定して供給する機能	15
2 ) 国民に将来への安心を与える機能	15
3 ) 国民の健康を増進する機能	16
4 ) 医薬品などの原料を供給する機能	17
2 . 自然環境を保全する役割	18
1 ) 物質の循環系を補完する機能	18
2 ) 環境を保全する機能	20
3 ) 生態系を保全する機能	22
3 . 地域社会を形成し維持する役割	24
1 ) 所得と雇用を創出し維持する機能	24
2 ) 文化を継承し創造する機能	25
3 ) 海と水産業に係わる機能を総合化して起業化を促進する機能	27

4 .	国民の生命財産を保全する役割	2 8
1 )	海難救助機能	2 8
2 )	災害を防ぎ救援する機能	2 9
3 )	海域環境モニタリングを補助する機能	3 0
4 )	国境としての海域を監視する機能	3 0
5 .	居住や交流などの「場」を提供する役割	3 1
1 )	海洋性レクリエーション	3 1
2 )	タラソセラピー	3 2
3 )	安全な水産物の安定的な供給をめぐる交流	3 3
4 )	教育と啓発の「場」の提供	3 3
4 - 1	学校教育における水産業・漁村の活用	3 3
4 - 2	社会人に対する啓発	3 4
4 - 3	施設を利用した交流と啓発	3 4
5 )	国土の荒廃を防ぎ保全する機能	3 5
5 - 1	漁村の存立	3 5
5 - 2	漁村の国土管理上の意義	3 5
5 - 3	漁村の基盤施設の現状	3 6
6 )	沿岸域・沿海域の美観を保全し景観を創造する機能	3 7
7 )	新しい漁村のためのインフラストラクチャー整備	3 7
III .	多面的な機能の国際的動向	3 9
IV .	多面的な機能の定量評価と今後の課題	4 1
1 .	多面的な機能の形成と特徴	4 1
2 .	多面的な機能評価の現状と取り組み	4 2
3 .	数量評価 - 経済評価の事例	4 4
4 .	数量評価（経済評価を含む）の意義と今後の課題	4 6
1 )	意義・目的	4 6
2 )	経済（貨幣）評価の手法	4 6
3 )	CVMによる経済評価の事例	4 9
4 )	今後の課題	4 9

あとがき	5 1
------	-----

(参考)

- ・ 「地球環境・人間生活にかかわる水産業及び漁村の多面的な機能の内容及び評価について」(諮問) 5 2
- ・ 特別委員会及びワーキンググループ委員一覧 5 4
- ・ 審議経過 5 6